

聴性脳幹反応（ABR）検査

概要

音は耳から聴神経を通り、脳へと順に伝わっていきます。この検査は音によって聴神経を刺激させ、脳（脳幹部）での反応を波として記録します。

検査方法

頭部と額、耳たぶに電極を付け、耳にヘッドホンを着用します。ヘッドホンから片耳ずつクリック音（カチカチという音）の刺激を繰り返し行い、波形を記録します。大きい音から小さい音まで順に検査を行います。

検査で分かること

主に聴力障害や脳幹障害の診断に用いられます。得られる波形には I 波から V 波の名前が付けられており、波形のパターンから音が伝わる経路に異常がないか、またその程度や部位を推定することもできます。

注意事項

・ 幼児など安静状態を保つことが困難な患者は、検査前に睡眠導入剤を使用する場合があります。主治医とご相談ください。

所要時間

約 60 分程度



よくある質問

Q：寝てしまっても大丈夫ですか？

A：この検査は意識状態や睡眠状態の影響を受けにくいので、検査中に寝てしまっても問題ありません。

Q：寝ていないと検査できないのですか？（小児の場合）

A：検査では非常に小さな電気信号を記録するため、起きている状態で動いてしまったり、力が入っている場合には筋肉の動きが波形に入ってしまう、記録の妨げになります。そのため、安静状態を保つことが難しい幼児などの場合には事前に睡眠導入剤を使用する場合があります。